

## (4) 櫛引地域

櫛引地域は、本市を代表する果樹の生産地であり、黒川能をはじめとする伝統芸能や、丸岡城跡及び加藤清正墓碑などの歴史遺産が数多く残る地域です。さらには、中央を南北に貫流する赤川や庄内が一望できる中山間地などの豊富な地域資源を有しています。これらの特性を生かすことで、地域内外のたくさんの人々が集い交流する賑わいの創出と、ここに住む人が将来にわたって物心ともに豊かに暮らせる活力ある地域づくりをめざします。

櫛引の果樹生産の特徴である多品目生産と、観光果樹園や産直などの先進的な取組を生かし、「フルーツの里」としてのブランド化と果樹を中心とした産業振興の拠点づくりを進めます。また、農業体験や自然体験の環境整備を進めることで都市部との交流人口の拡大を図り、地域を越えて連携する広域の観光周遊の仕組みづくりに取り組みます。

黒川能を始めとする貴重な伝統芸能の保存と継承を支援し、あわせて観光資源としての活用を図ります。また、赤川周辺の施設や自然、芸術作品などを活用した憩いと賑わいの拠点づくりを進め、地域の活性化につなげます。

少子化や高齢化、人口減少などを見据え、住民の暮らしを守るための、地域コミュニティの維持活性化と、健康で安全安心な生活が送れる仕組みづくりを進めます。

### ア フルーツの里づくりと地域連携による交流人口の拡大

#### ○施策の方向

櫛引地域の農業の強みである少量多品目の特性を生かした果樹のブランド化により付加価値を高め、継続的で経営力のある産地形成をめざすとともに豊かな農業と自然を生かした都市農村交流を進め、交流人口の拡大を図ります。羽黒山や湯殿山などに代表される鶴岡の大きな観光資源を核にしなが、それぞれの特色を生かし地域を越えて連携する広域観光圏の形成を推進します。

#### ○主な施策

- ① 産直めぐり周辺を「フルーツランド(仮称)」として拡張整備を進め、ここを拠点に果樹園地の流動化の促進や果樹栽培経営体の法人化などの支援、ICTを活用した効率的な生産体制の強化を図るとともに、各種助成事業を積極的に活用することで、果樹生産基盤の整備推進に取り組みます。
- ② 庄内地域で随一の多品目生産の果樹産地として、限られた樹園地面積の中で、遊休農地の流動化と持続可能な園地循環の仕組みを構築し、ブランド戦略により付加価値の高い6次産業化商品の開発と首都圏への販売ルートの一環システムを確立し、果樹産地としての「フルーツの里くしびき」のブランド化を図ります。
- ③ 観光果樹園や農家民宿、飲食店などの経営の安定化や観光施設としての資

質向上、新たな開設などを支援し、農業体験型観光の拡大充実と果樹を資源とした観光ネットワークを展開します。

- ④ 首都圏の修学旅行や農業体験受け入れの体制強化を進めるとともに、これらの交流関係を持続的なものとする空き家を活用した交流ゲストハウスの開設に取り組みます。また、たらのきだ이스キー場の通年型自然体験施設の取組と宝谷の自然を生かした農業自然体験空間の充実を図ります。
- ⑤ 南部広域拠点(櫛引、朝日、黄金)が連携する観光商品の開発や滞在型、着地型観光の情報発信と、地域デマンド交通と一体となった地域主体型の観光二次交通システムの構築を支援し、羽黒山などからの観光客の周遊を促す広域観光圏の形成を推進します。
- ⑥ 域内交通の利便性向上や観光振興に資する広域幹線道路について、周辺地域と連携し早期着工を関係機関に要望していきます。

## イ 黒川能など貴重な歴史文化の継承と活用推進

### ○施策の方向

黒川能などの貴重な歴史文化を保存伝承していくため、地域全体でその価値を共有し、時代の変化に合った伝承の方策を探りながら新たな地域活動へつなげていきます。また、歴史文化の資源や遺産を活用し慣れ親しむ場を積極的に提供することで、保存伝承活動への理解促進と地域の活性化を図ります。

### ○主な施策

- ① 黒川能保存伝承研究会などの開催と、映像や音源の記録保存による伝承支援、また、能楽愛好者などの稽古や合宿誘致による黒川能ファンの獲得と、情報発信を推進します。
- ② 天狗舞獅子舞などの民族芸能の実態調査と課題の掘り起しなどを進め、民俗芸能の継承活動を支援します。
- ③ 丸岡城跡史跡公園と黒川能の里王祇会館への集客や利用拡大を関係団体と一緒に進め、地域の歴史文化の理解促進と地域の活性化を図ります。

### ※黒川能保存伝承研究会

識見者による黒川能の歴史や行事食の可能性などを学習する機会とし、理解を深める取り組みを広げ、具体的な活性化の実践につなげることを目的とする、公益財団法人黒川能保存会主催事業。

## ウ コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進

### ○施策の方向

地域コミュニティの役割が増す一方、その機能低下が懸念される中において、担い手の育成や集落自治体制を補完する広域コミュニティの設置検討や集落の連携などの新たな仕組みづくりを支援します。また、健康維持のための拠点づくりや新たな地域公共交通の構築など、健康で安全、安心に暮らせる環境整備

を図るとともに、地域資源を生かした元気なまちづくりを推進します。

○主な施策

- ① 地域コミュニティ活性化推進のための集落支援体制の強化や櫛引生涯学習センターを拠点とした生涯学習の推進、また、ケーブルテレビを活用した情報発信と地域づくりの推進など、活力と持続性のあるコミュニティづくりを進めます。
- ② 将来の地域づくりのリーダーを育成する取組や鶴岡まちづくり塾によるイベントを支援し、協働のまちづくりと地域のにぎわい創出に取り組みます。
- ③ 新たな地域公共交通の構築を図り、子どもや高齢者など交通弱者の生活支援を推進します。
- ④ 住民同士の語らいや交流活動、創作(ものづくり)活動、文化活動、レクリエーション活動の取組を促す事業を実施することで、健康で生きがいのあるコミュニティづくりを推進します。
- ⑤ 赤川河畔エリア(櫛引総合運動公園、桜並木)、くしびき温泉ゆ〜Town、櫛引パーキングエリア地域拠点施設、生き生きべんとう村及び彫刻家富樫実氏の「空にかける階段」の作品群などの地域資源を効果的に活用し、魅力と賑わいある地域づくりを推進します。

**施策の成果指標**

項目(測り方)	現状値	成果指標(KPI)
①果樹販売額(J A櫛引支所、産直施設)	318,759千円 (2016(平成28)年)	330,000千円 (2028年度)
②櫛引地域観光果樹園観光入込客数	18,258人 (2017(平成29)年)	24,000人 (2028年度)
③櫛引地域の年間観光入込客数(11施設)	748千人 (2017(平成29)年)	1,004千人 (2028年度)
④単位自治組織の地域ビジョン策定数 (全21組織・累計)	1組織 (2018(平成30)年)	10組織 (2028年度)

**[設定理由]**

フルーツランド(仮称)プロジェクトによる拠点整備、販売とブランド化戦略の構築、果樹生産基盤整備による経営体の強化、付加価値の高い6次産業化

商品の開発と首都圏への販売ルートシステムの確立により、果樹販売額の増加につながる。

果樹産地としての「フルーツの里くしびき」のブランド化の推進や、農業体験型観光の拡大と広域観光圏の形成、宣伝効果のある果樹園の整備などにより、観光果樹園への来場者増につながる。

市南部地域（櫛引、朝日、黄金）における広域観光圏の形成を推進するとともに、農業体験型観光の拡大などにより年間観光入込客数の増加につながる。

集落支援体制の強化や地域コミュニティ実態調査、ワークショップ開催など住民主体の地域づくりを支援することにより、課題解決に向けた取組が活性化し、地域ビジョンを策定する自治組織の増加につながる。

## 総合計画基本計画 評価調書 (中項目)

担当部・庁舎・課室名

櫛引庁舎産業建設課

1. 基本計画での 位置付け	大項目	7 地域の振興				
2. 中項目	(4) 櫛引地域 (うち「ア フルーツの里づくりと地域連携による交流人口の拡大」関連)					
3. 施策の成果指標 (KPI)	項目(測り方)	現状値 (初期値)	令和元(2019) 年度	令和2(2020) 年度	令和3(2021) 年度	成果指標(KPI)
	果樹販売額 (JA櫛引支所、 産直施設)	318,759 千円	366,837 千円	357,015 千円	337,350 千円	330,000 千円
4. 施策の成果指標 (KPI)の評価	進捗	コロナによる 影響	現状値の原因・要因分析			
	A	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	さくらんぼや大粒ぶどう(シャインマスカット等)の人気上昇により、 成果指標(KPI)を上回る実績となっている。 しかしながら、新型コロナウイルス感染症による県外客等の減少や 雹害等の自然災害により、令和元年度から令和3年度までの3年 間は減少傾向にある。			
5. 中項目の評価	「園地継承・後継者の確保」、「生産者の所得向上」、「産地PR」を3本柱とする「くしびきフルーツ振興プロジェクト事業」を展開しながら、「フルーツの里くしびき」のブランド化を推進しており、市内飲食店等と連携した「くしびき☆えくぼフルーツフェア」の実施やふるさと納税返礼品の取組みの推進により、フルーツの里づくりに向けて一定の成果があった。					
6. 施策の成果指標 (KPI)の達成に 向けた課題や今 後の対応	施策の成果指標(KPI)は達成済ではあるが、さらなる果樹販売額の増加に向けて、ブランド化の推進やふるさと納税返礼品、プロモーション活動の拡充等による新たな販路拡大に取り組むとともに、園地継承支援体制の構築を推進する。 KPIとしては達成済みであるが、安定的な販売額の確保、さらなる増額を目指したいと考えている。					

## ※進捗について

『A』: 成果指標とする数値を達成した (R 3 数値  $\geq$  成果指標)『B』: 成果指標とする数値の達成に向け現状値(初期値)から進展がある (初期値  $<$  R 3 数値  $<$  成果指標)『C』: 現状値(初期値)から進展がない又は後退した (初期値  $\geq$  R 3 数値)

『-』: データが未集計若しくは有効な数値がない

## 総合計画基本計画 評価調書(中項目)

担当部・庁舎・課室名

櫛引庁舎産業建設課

1. 基本計画での 位置付け	大項目	7 地域の振興				
2. 中項目	(4) 櫛引地域 (うち「ア フルーツの里づくりと地域連携による交流人口の拡大」関連)					
3. 施策の成果指標 (KPI)	項目(測り方)	現状値 (初期値)	令和元(2019) 年度	令和2(2020) 年度	令和3(2021) 年度	成果指標(KPI)
	櫛引地域観光 果樹園観光入 込客数	18,258 人	16,893 人	15,427 人	13,471 人	24,000 人
4. 施策の成果指標 (KPI)の評価	進捗	コロナによる 影響	現状値の原因・要因分析			
	C	<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無	新型コロナウイルス感染症による県外客等の減少や観光果樹園の開園見送り、さらには一部園地における廃園の影響を受け、現状値(初期値)から後退した。			
5. 中項目の評価	地域連携による交流人口の拡大に関して、観光果樹園では、SNSを活用した情報発信やモニターツアー(さくらんぼ、ぶどう)の実施等の誘客促進に取り組んだ。					
6. 施策の成果指標 (KPI)の達成に 向けた課題や今 後の対応	<p>新型コロナウイルス感染症対策の実施(入園者把握、検温、手指消毒)や3密回避のための入場制限等、コロナ禍での観光果樹園経営が負担となり、一部園地での廃園(R1:12⇒R3:10 ▲2)につながっている。</p> <p>観光果樹園の継続に向けて、国県等のコロナ支援事業を活用するとともに、情報発信等の積極的なPR活動に努め、園地継承支援体制の構築にも取り組む。</p> <p>KPIとしては、当面、コロナ影響からの回復を目標にしたいと考えている。</p>					

## ※進捗について

- 『A』: 成果指標とする数値を達成した (R 3 数値 $\geq$ 成果指標)
- 『B』: 成果指標とする数値の達成に向け現状値(初期値)から進展がある (初期値 $<$ R 3 数値 $<$ 成果指標)
- 『C』: 現状値(初期値)から進展がない又は後退した (初期値 $\geq$ R 3 数値)
- 『-』: データが未集計若しくは有効な数値がない

総合計画基本計画 評価調書 (中項目)

担当部・庁舎・課室名

櫛引庁舎 総企・市福・産建

1. 基本計画での位置付け	大項目	7 地域の振興				
2. 中項目	(4) 櫛引地域 (うち「ア フルーツの里づくりと地域連携による交流人口の拡大」関連) (「イ 小項目 歴史文化の継承と活用推進」 ウ 小項目 地域づくりの推進」関連も含む)					
3. 施策の成果指標 (KPI)	項目(測り方)	現状値 (初期値)	令和元(2019)年度	令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	成果指標(KPI)
	櫛引地域施設の年間入込客数(11施設)	748千人 (2017年度(平成29年度))	697千人	616千人	621千人	1,004千人
4. 施策の成果指標 (KPI)の評価	進捗	コロナによる影響	現状値の原因・要因分析			
	C	有・無	櫛引管内11施設の入込客数については、令和元年度のスキー場の雪不足、令和2年度以降の新型コロナウイルスの影響を主な要因として、減少している。 ※11施設 王祇会館、ゆ〜Town、スキー場、ほのか、ふるさとむら、丸岡城跡(楽朋館)、果樹園、柏戸記念館、櫛引PA、農家民宿、産直あぐり			
5. 中項目の評価	櫛引地域では、観光果樹園や農業体験施設、産直施設、温泉施設、歴史文化施設等を有し、地域全体の入込客数は減少傾向にあるが、以下の取組等により観光の振興や環境整備に一定の成果があった。 ○誘客や利便性、満足度アップのため、櫛引観光協会などによる自主事業の開催や観光施設の案内、資質向上研修等に支援。 ○宝谷地区では、そば「でわ宝」を核とした地域活性化、農家民宿グループ黒川能の里の会では、視察研修や料理講習を通して、グリーンツーリズムの展開が推進され、交流人口の拡大に一定の成果があった。 ○櫛引たらのきだいたいスキー場は、計画的な設備修繕のほか、地域まちづくり未来事業を活用したそり乗り場の造成、レンタル用品の整備支援、カラー照明灯改修など、安心安全で気軽に家族等で楽しめるウインタースポーツ環境の整備を進めるとともに、全国スキー場と連携した雪マジ！19に取組み、若者の誘客促進が図られた。 ○歴史文化の活用推進として、丸岡城跡史跡公園の駐車場整備や、英訳付きパンフレット・看板の製作により、観光振興につながる環境整備を行った。また、酒井家荘内入部400年事業と連携し、市内外に積極的な情報発信を行った。					
6. 施策の成果指標 (KPI)の達成に向けた課題や今後の対応	新型コロナウイルスの影響で人や物の移動が制限されたことや自粛ムードから、入込客数が減少したが、制限緩和やワクチン接種の浸透に伴い観光客数は徐々に回復すると予想される。 櫛引たらのきだいたいスキー場については、全国的なスキー人気の落ち込みと同様に利用者が減少傾向にあるため、リフト券の割引やイベントの開催による利用者増加を図る。 ほかに施設についても今までの施策や環境整備を活かした誘客促進、市、観光協会、各施設が連携した周遊する仕組みづくり、情報発信の強化、インバウンド対応などを行い、新たな観光客の獲得や、市南部エリア広域観光として面的な振興が必要である。 KPIとしては、当面、コロナ影響からの回復を目標にしたいと考えている。					

※進捗について

- 『A』: 成果指標とする数値を達成した (R 3数値 ≥ 成果指標)
- 『B』: 成果指標とする数値の達成に向け現状値(初期値)から進展がある (初期値 < R 3数値 < 成果指標)
- 『C』: 現状値(初期値)から進展がない又は後退した (初期値 ≥ R 3数値)
- 『-』: データが未集計若しくは有効な数値がない

## 総合計画基本計画 評価調書 (中項目)

担当部・庁舎・課室名

櫛引庁舎 総企・市福・産建

1. 基本計画での 位置付け	大項目	7 地域の振興				
2. 中項目	(4) 櫛引地域 (うち「ウ コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進」関連)					
3. 施策の成果指標 (KPI)	項目(測り方)	現状値 (初期値)	令和元(2019) 年度	令和2(2020) 年度	令和3(2021) 年度	成果指標(KPI)
	単位自治組織 の地域ビジョ ン策定数(全 21 組織・累計)	1組織	1組織	1組織	1組織	10 組織
4. 施策の成果指標 (KPI)の評価	進捗	コロナによる 影響	現状値の原因・要因分析			
	C	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	<ul style="list-style-type: none"> <li>●KPI設定の前提条件として、地域まちづくり未来事業にて専門職員(会計年度任用職員)を設置し、その推進を考えていたが、配置とはならなかった。</li> <li>●ここ数年、コロナ禍により自治会において、総会が書面決議となったり、通常の行事や会合自体も中止・縮小となったりし、自治会の将来を考えるような機会の創出が難しい状況にあった。</li> <li>●現在、広域自主防災組織・広域コミュニティの設置に向けた研究、検討を優先して進めている。</li> </ul>			
5. 中項目の評価	<p>「コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進」については、KPIに掲げた集落ビジョン策定数は進まなかったが、アドバイザー職員制度の活用(丸岡・馬渡・宝谷)や地域おこし協力隊・地域まちづくり未来事業による集落支援、広域コミュニティ組織の研究・検討の再開、櫛引生涯学習振興会による市民目線の生涯学習の推進など一定の成果があった。</p> <p>交通空白域の解消や交通弱者の移動支援として、櫛引デマンドタクシー「くしびつき」の実証実験が開始され、長年の課題解決につながったものの、利用者数が伸び悩んでおり、利用拡大を進めているところである。</p> <p>健康増進施設として再出発したくしびき温泉ゆ〜Townには、フレイル予防事業をはじめ、地域密着型として指定管理者と市が連携して運営にあたっている。</p>					
6. 施策の成果指標 (KPI)の達成に 向けた課題や今 後の対応	<p>広域コミュニティ組織について、近年の自然災害の増加による広域自主防災組織の必要性等気運の高まりから、区長会(自治会の連合組織)において検討・研究を再開しており、各種組織代表者による検討会を再設置し、取組を加速させる。</p> <p>KPIとしては、当面、広域組織の設置に行政施策をシフトすることとし、地域ビジョン(集落ビジョン)の策定については、設置後の推進課題として改めたいと考えている。</p>					

## ※進捗について

『A』: 成果指標とする数値を達成した (R 3数値 $\geq$ 成果指標)『B』: 成果指標とする数値の達成に向け現状値(初期値)から進展がある (初期値 $<$ R 3数値 $<$ 成果指標)『C』: 現状値(初期値)から進展がない又は後退した (初期値 $\geq$ R 3数値)

『-』: データが未集計若しくは有効な数値がない



【整理番号 No.646】

総合計画基本計画 評価調書(主な施策)

担当部・庁舎・課室名

櫛引庁舎 産建

<p>1. 基本計画での位置付け</p>	<p>大項目 7 地域の振興 中項目 (4) 櫛引地域 小項目 ア フルーツの里づくりと地域連携による交流人口の拡大</p>																																								
<p>2. 主な施策</p>	<p>① 産直あぐり周辺を「フルーツランド(仮称)」として拡張整備を進め、ここを拠点に果樹園地の流動化の促進や果樹栽培経営体の法人化などの支援、ICTを活用した効率的な生産体制の強化を図るとともに、各種助成事業を積極的に活用することで、果樹生産基盤の整備推進に取り組む。</p>																																								
<p>3. これまでの取組内容</p>	<p>産直あぐり周辺の「フルーツランド(仮称)」拡張整備は、実施主体の選定等の調整が難航したことから、ゼロベースへ白紙撤回することとした。 「フルーツランド(仮称)」の白紙撤回を受け、今後の櫛引地域の果樹振興を図るため、関係機関との意見交換を行い、櫛引地域産業振興プロジェクト推進協議会が主体となって、関係機関と連携しながら、「園地継承・後継者の確保」、「生産者の所得向上」、「産地PR」を事業の3本柱とする方向性を確認した。 国・県補助事業を活用しながら、果樹雨除けハウスやかん水設備の整備等を進めた。 R3年度は、過去に経験したことのない雹害が発生したことに伴い、被災農家支援を目的に「くしびき☆えくぼフルーツフェア」を実施し、市内飲食店等の協力のもと、雹害果実の有効活用を図った。(参加生産者:6軒、参加飲食店等:23店舗、出荷数量:1,692kg、販売金額:575,910円) さらに、R4年度についても「フルーツWeeks」として継続実施し、規格外品の有効活用等による生産者の所得向上を図った。(参加生産者:6軒、参加飲食店等:7店舗、出荷数量:218kg、販売金額:116,856円)</p>																																								
<p>4. 主な施策に関わる背景と課題</p>	<p>R2年度の市農業産出額(307億円)のうち、果樹が占める金額は26億円(約8%)である。 経営体数(果樹)は過去5年で約23%減少、担い手の高齢化等により後継者不足が深刻となっている。 栽培面積(果樹)は過去5年で約14%減少、機械化が難しく手作業が多いため規模拡大が困難となっている。</p> <table border="1" data-bbox="957 1120 1452 1534"> <caption>鷗岡市の農業産出額(推計)及び販売目的の主要果樹類経営体数、栽培面積</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>H27</th> <th>R2</th> <th>増減</th> <th>比較</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全体</td> <td>282億</td> <td>307億</td> <td>+25億</td> <td>+9%</td> </tr> <tr> <td>米</td> <td>122億</td> <td>141億</td> <td>+19億</td> <td>+15%</td> </tr> <tr> <td>園芸作物</td> <td>125億</td> <td>134億</td> <td>+9億</td> <td>+7%</td> </tr> <tr> <td>うち果樹</td> <td>19億</td> <td>26億</td> <td>+7億</td> <td>+37%</td> </tr> <tr> <td>畜産</td> <td>30億</td> <td>26億</td> <td>▲4億</td> <td>▲13%</td> </tr> <tr> <td>経営体数(果樹)</td> <td>1,181</td> <td>910</td> <td>▲271</td> <td>▲23%</td> </tr> <tr> <td>栽培面積(果樹)</td> <td>543ha</td> <td>466ha</td> <td>▲77ha</td> <td>▲14%</td> </tr> </tbody> </table> <p>出典:農林業センサス</p>		H27	R2	増減	比較	全体	282億	307億	+25億	+9%	米	122億	141億	+19億	+15%	園芸作物	125億	134億	+9億	+7%	うち果樹	19億	26億	+7億	+37%	畜産	30億	26億	▲4億	▲13%	経営体数(果樹)	1,181	910	▲271	▲23%	栽培面積(果樹)	543ha	466ha	▲77ha	▲14%
	H27	R2	増減	比較																																					
全体	282億	307億	+25億	+9%																																					
米	122億	141億	+19億	+15%																																					
園芸作物	125億	134億	+9億	+7%																																					
うち果樹	19億	26億	+7億	+37%																																					
畜産	30億	26億	▲4億	▲13%																																					
経営体数(果樹)	1,181	910	▲271	▲23%																																					
栽培面積(果樹)	543ha	466ha	▲77ha	▲14%																																					
<p>5. 今後の方向性(R6~R10)</p>	<p>果樹園地の流動化の促進や果樹栽培経営体の法人化などの支援、ICTを活用した効率的な生産体制の強化については、櫛引地域産業振興プロジェクト推進協議会を実施主体としながら、関係機関と連携して取り組む。 さらに、園地継承・後継者確保の対策として、果樹生産者の基礎資料作成等を目的とした、果樹生産者実態把握調査の実施に向けて、関係機関と協議を進める。 また、果樹生産基盤の整備推進については、国・県補助事業の活用が効果的であることから、関係機関と連携しながら、補助事業の継続に努める。</p>																																								

【整理番号 No.647】

総合計画基本計画 評価調書(主な施策)

担当部・庁舎・課室名 梶引庁舎 産建

<p>1. 基本計画での位置付け</p>	<table border="1"> <tr> <td>大項目</td> <td>7 地域の振興</td> </tr> <tr> <td>中項目</td> <td>(4) 梶引地域</td> </tr> <tr> <td>小項目</td> <td>ア フルーツの里づくりと地域連携による交流人口の拡大</td> </tr> </table>	大項目	7 地域の振興	中項目	(4) 梶引地域	小項目	ア フルーツの里づくりと地域連携による交流人口の拡大																													
大項目	7 地域の振興																																			
中項目	(4) 梶引地域																																			
小項目	ア フルーツの里づくりと地域連携による交流人口の拡大																																			
<p>2. 主な施策</p>	<p>② 庄内地域で随一の多品目生産の果樹産地として、限られた樹園地面積の中で、遊休農地の流動化と持続可能な園地循環の仕組みを構築し、ブランド戦略により付加価値の高い 6 次産業化商品の開発と首都圏への販売ルートの一環システムを確立し、果樹産地としての「フルーツの里くしびき」のブランド化を図ります。</p>																																			
<p>3. これまでの取組内容</p>	<p>梶引地域産業振興プロジェクト推進協議会を実施主体として、「フルーツの里」ブランド化支援事業(市補助事業)を実施し、フルーツの里推進員による情報発信やプロモーション活動を強化した。</p> <p>主なものとして、SNS による「くしびきフルーツ日記」の配信(R1:61 回、R2:123 回、R3:54 回)及び冊子版の作成(R1~R3:各年度 500 部ずつ)、観光果樹園の英語版紹介チラシの作成(1,000 部)、首都圏(神楽坂)プロモーションの実施(R1:2 回、R2:中止、R3:中止、R4:1 回)等の事業を展開した。</p> <p>販路拡大を図るため、生産者にふるさと納税返礼品への出品協力を依頼し、ぶどう(シャインマスカット)やさくらんぼ(佐藤錦、紅秀峰)等を新規開拓するとともに、産直めぐりでは、新たにフルーツ加工品(タルト、パウンドケーキ)の取り扱いを開始した。</p>																																			
<p>4. 主な施策に関わる背景と課題</p>	<p>コロナ禍による移動制限により、首都圏(神楽坂)でのプロモーション活動が一時停止しているが、通販の活用など、新たな販売手段を取り入れている。</p> <p>市全体でふるさと納税への取組みを積極的に推進しており、フルーツ関係では過去 3 年で 3 倍を超える件数、寄附金額に増加した。</p> <table border="1" data-bbox="351 1243 1484 1444"> <caption>鶴岡市ふるさと納税実績(全体・フルーツ関係)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">R1</th> <th colspan="2">R2</th> <th colspan="2">R3</th> <th colspan="2">比較(R1⇒R3)</th> </tr> <tr> <th>件数</th> <th>寄附額(千円)</th> <th>件数</th> <th>寄附額(千円)</th> <th>件数</th> <th>寄附額(千円)</th> <th>件数</th> <th>寄附額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全体</td> <td>33,912</td> <td>484,209</td> <td>80,427</td> <td>1,076,100</td> <td>96,260</td> <td>1,463,742</td> <td>約2.5倍</td> <td>約3倍</td> </tr> <tr> <td>うちフルーツ</td> <td>7,416</td> <td>87,279</td> <td>19,713</td> <td>251,979</td> <td>26,747</td> <td>293,739</td> <td>約3.5倍</td> <td>約3.4倍</td> </tr> </tbody> </table>	区分	R1		R2		R3		比較(R1⇒R3)		件数	寄附額(千円)	件数	寄附額(千円)	件数	寄附額(千円)	件数	寄附額	全体	33,912	484,209	80,427	1,076,100	96,260	1,463,742	約2.5倍	約3倍	うちフルーツ	7,416	87,279	19,713	251,979	26,747	293,739	約3.5倍	約3.4倍
区分	R1		R2		R3		比較(R1⇒R3)																													
	件数	寄附額(千円)	件数	寄附額(千円)	件数	寄附額(千円)	件数	寄附額																												
全体	33,912	484,209	80,427	1,076,100	96,260	1,463,742	約2.5倍	約3倍																												
うちフルーツ	7,416	87,279	19,713	251,979	26,747	293,739	約3.5倍	約3.4倍																												
<p>5. 今後の方向性(R6~R10)</p>	<p>梶引地域産業振興プロジェクト推進協議会を実施主体として、「フルーツの里」ブランド化支援事業(市補助事業)を継続し、フルーツの里推進員による情報発信やプロモーション活動を強化するとともに、持続可能な園地循環の仕組み構築や商品開発から販売までの一環システムの確立に向けて、先進地事例の研究や果樹生産者実態把握調査の実施など、関係機関と連携しながら体制整備に努める。</p>																																			

【整理番号 No.648】

総合計画基本計画 評価調書(主な施策)

担当部・庁舎・課室名 櫛引庁舎産業建設課

<p>1. 基本計画での位置付け</p>	<p>大項目 7 地域の振興 中項目 (4) 櫛引地域 小項目 ア フルーツの里づくりと地域連携による交流人口の拡大</p>																		
<p>2. 主な施策</p>	<p>③ 観光果樹園や農家民宿、飲食店などの経営の安定化や観光施設としての資質向上、新たな開設などを支援し、農業体験型観光の拡大充実と果樹を資源とした観光ネットワークを展開します。</p>																		
<p>3. これまでの取組内容</p>	<p>会員研修やイベントが開催されるとともに情報発信が行われることにより観光振興を図るため、櫛引観光協会の事業に対し、補助金を交付した。</p> <p>黒川能を軸とした地域特有の風土、暮らし、産物等を活用した農家民宿を支援し、特徴あるグリーン・ツーリズムの展開、交流人口の拡大、地域農産物の直接販売の拡大による地域全体の多面的な収益の拡大と活性化を図るため農家民宿グループ黒川能の里の会が行う事業に対し、補助金を交付した。</p>																		
<p>4. 主な施策に関わる背景と課題</p>	<p>観光果樹園、農家民宿ともに、新型コロナウイルスの影響で利用者が減少傾向にある。</p> <div data-bbox="379 920 1177 1402"> <table border="1"> <caption>利用者の推移 (人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>観光果樹園 (人)</th> <th>農家民宿 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td>18,258</td> <td>3,505</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>17,617</td> <td>3,507</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>16,893</td> <td>3,065</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>15,427</td> <td>1,190</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>13,550</td> <td>1,344</td> </tr> </tbody> </table> </div>	年度	観光果樹園 (人)	農家民宿 (人)	H29	18,258	3,505	H30	17,617	3,507	R1	16,893	3,065	R2	15,427	1,190	R3	13,550	1,344
年度	観光果樹園 (人)	農家民宿 (人)																	
H29	18,258	3,505																	
H30	17,617	3,507																	
R1	16,893	3,065																	
R2	15,427	1,190																	
R3	13,550	1,344																	
<p>5. 今後の方向性 (R6~R10)</p>	<p>櫛引観光協会への補助金交付を継続し、観光振興等の活動を支援する。 農家民宿グループ黒川能の里の会に対し、活動に対する助言など補助金によらない支援を継続し、黒川能を軸とした地域特有の風土、暮らし、産物等を活用した農家民宿を支援し、特徴あるグリーン・ツーリズムの展開、交流人口の拡大、地域農産物の直接販売の拡大による地域全体の多面的な収益の拡大と活性化を図る。</p>																		

【整理番号 No.649】

総合計画基本計画 評価調書(主な施策)

担当部・庁舎・課室名 榎引庁舎産業建設課

<p>1. 基本計画での位置付け</p>	<p>大項目 7 地域の振興</p> <p>中項目 (4) 榎引地域</p> <p>小項目 ア フルーツの里づくりと地域連携による交流人口の拡大</p>																																																						
<p>2. 主な施策</p>	<p>④ 首都圏の修学旅行や農業体験受け入れの体制強化を進めるとともに、これらの交流関係を持続的なものとする空き家を活用した交流ゲストハウスの開設に取り組みます。また、榎引たらのきだ이스キー場の通年型自然体験施設の取組と宝谷の自然を生かした農業自然体験空間と事業の充実を図ります。</p>																																																						
<p>3. これまでの取組内容</p>	<p>・「榎引たらのきだ이스キー場」に、夏の利用者を増やすため推進協議会を設立し、先進地の視察を行った。また、基本計画の策定、ひまわり植栽実証実験、照明の整備等を実施した。</p> <p>・「ほのかたらのきだい」については、自然体験施設と連携するため、金峰少年自然の家と意見交換を行うとともに冬季インバウンドの受け入れなどを検討した。</p> <p>・宝谷での横浜青木小との修学旅行の交流は20年以上継続。R2 から R4までは、コロナで中止。</p>																																																						
<p>4. 主な施策に関わる背景と課題</p>	<p>・「榎引たらのきだ이스キー場」は、全国的なスキー人気の落ち込みと同様に利用者が減少している。</p> <p>・「ほのかたらのきだい」は、宿泊機能を有する地域資源活用型体験施設、およびスキー場の食堂等ロッジとして増築したが、スキー客の利用はあるものの、夏場の利用者は皆無。</p> <p>・地域住民や施設利用者からは、両施設存続の強い要望がある。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="343 1108 909 1444"> <p>スキー場利用者 (人)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H13</td><td>H16</td><td>H19</td><td>H22</td><td>H25</td><td>H28</td><td>R1</td><td>R3</td></tr> <tr><th>利用者数</th><td>57,029</td><td>38,242</td><td>31,500</td><td>27,154</td><td>34,412</td><td>17,802</td><td>4,803</td><td>30,307</td></tr> </table> </div> <div data-bbox="917 1108 1476 1444"> <p>ほのかたらのきだい利用者 (人)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td></tr> <tr><th>日帰り</th><td>1,089</td><td>986</td><td>761</td><td>752</td><td>709</td><td>36</td><td>381</td><td>381</td></tr> <tr><th>宿泊</th><td>0</td><td>0</td><td>17</td><td>33</td><td>20</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><th>利用者計</th><td>1,089</td><td>986</td><td>778</td><td>785</td><td>729</td><td>36</td><td>381</td><td>381</td></tr> </table> </div> </div>	年度	H13	H16	H19	H22	H25	H28	R1	R3	利用者数	57,029	38,242	31,500	27,154	34,412	17,802	4,803	30,307	年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	日帰り	1,089	986	761	752	709	36	381	381	宿泊	0	0	17	33	20	0	0	0	利用者計	1,089	986	778	785	729	36	381	381
年度	H13	H16	H19	H22	H25	H28	R1	R3																																															
利用者数	57,029	38,242	31,500	27,154	34,412	17,802	4,803	30,307																																															
年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3																																															
日帰り	1,089	986	761	752	709	36	381	381																																															
宿泊	0	0	17	33	20	0	0	0																																															
利用者計	1,089	986	778	785	729	36	381	381																																															
<p>5. 今後の方向性 (R6~R10)</p>	<p>・「榎引たらのきだ이스キー場」は、冬、ファミリー向けスキー場として健全経営を継続する。</p> <p>・冬以外の期間は、「ほのかたらのきだい」と合わせ今後も活用方法等を検討する。</p> <p>・青木小の修学旅行や宝谷での農業体験受け入れを継続</p>																																																						

総合計画基本計画 評価調書(主な施策)

		担当部・庁舎・課室名
		榎引庁舎産業建設課
1. 基本計画での位置付け	大項目	7 地域の振興
	中項目	(4) 榎引地域
	小項目	ア フルーツの里づくりと地域連携による交流人口の拡大
2. 主な施策	⑤ 南部広域拠点(榎引、朝日、黄金)が連携する観光商品の開発や滞在型、着地型観光の情報発信と、地域デマンド交通と一体となった地域主体型の観光二次交通システムの構築を支援し、羽黒山などからの観光客の周遊を促す広域観光圏の形成を推進します。	
3. これまでの取組内容	<p>南部広域拠点周遊ルート構築と情報発信の検討材料とするため、榎引地域振興懇談会の議題として委員から意見をいただいた。</p> <p>観光ルートや交通手段の検討、榎引地域デマンド交通と観光二次交通の連携を検討した。</p> <p>榎引観光協会及びあさひむら観光協会の役員と事務局、朝日庁舎と榎引庁舎の担当者で会議を開催し、地域の観光資源やインバウンド、情報発信について意見交換を行った。</p>	
4. 主な施策に関わる背景と課題	<p>本市の観光は、加茂水族館と羽黒山が中心であり、プラスして4温泉地への潜在であり、市内全域に目を向けた広域型観光の推進が求められる。</p> <p>榎引地域の場合、黒川能の里王祇会館、丸岡城跡史跡公園、観光果樹園等の特徴ある観光資源を有するが、榎引・朝日・黄金地区などと連携した南部エリアとしての観光ルート確立と情報発信が不十分である。また、地域の交通ターミナルから観光スポットへの二次交通確保が課題となっている。</p>	
5. 今後の方向性 (R6~R10)	<p>市南部エリアの観光組織の連携のもと、情報発信、インバウンド対応などについて検討を進めるとともに、見どころ・景観スポットの抽出や周遊ルートの設定を行い、情報発信を行いながらマイクロツーリズムを推進する。</p> <p>観光二次交通の確保について引き続き検討するとともに車によるマイクロツーリズムの推進についても検討する。</p>	

## 総合計画基本計画 評価調書(主な施策)

担当部・庁舎・課室名 櫛引庁舎産業建設課

1. 基本計画での 位置付け	大項目	7 地域の振興
	中項目	(4) 櫛引地域
	小項目	ア フルーツの里づくりと地域連携による交流人口の拡大
2. 主な施策	⑥ 城内交通の利便性向上や観光振興に資する広域幹線道路について、周辺地域と連携し早期着工を関係機関に要望していきます。	
3. これまでの取組 内容	・県道たらのき代鶴岡線、外内島～我老林間のバイパス新設を庄内地方重要要望として継続して要望している。	
4. 主な施策に関わ る背景と課題	・加茂水族館、羽黒山等他地域の観光資源との連携が課題であり、高速道及び国道とのアクセス道の整備が必要である。	
5. 今後の方向性 (R6～R10)	引き続き早期着手に向け要望を継続して行っていく。	

総合計画基本計画 評価調書(主な施策)

担当部・庁舎・課室名	櫛引庁舎 総企
------------	---------

<p>1. 基本計画での位置付け</p>	<table border="1"> <tr> <td>大項目</td> <td>7 地域の振興</td> </tr> <tr> <td>中項目</td> <td>(4) 櫛引地域</td> </tr> <tr> <td>小項目</td> <td>イ 黒川能など貴重な歴史文化の継承と活用推進</td> </tr> </table>	大項目	7 地域の振興	中項目	(4) 櫛引地域	小項目	イ 黒川能など貴重な歴史文化の継承と活用推進
大項目	7 地域の振興						
中項目	(4) 櫛引地域						
小項目	イ 黒川能など貴重な歴史文化の継承と活用推進						
<p>2. 主な施策</p>	<p>① 黒川能保存伝承研究会などの開催と、映像や音源の記録保存による伝承支援、また、能楽愛好者などの稽古や合宿誘致による黒川能ファンの獲得と、情報発信を推進します。</p>						
<p>3. これまでの取組内容</p>	<p>黒川能保存伝承研究会を開催し、黒川能に造詣の深い識見者の講演会や各地域の伝統芸能の上演等を毎年企画実施している。令和4年度は、酒井家庄内入部 400 年記念事業と連携し、酒井家拝領品特別展示を10月2日～11月29日に、春日神社所蔵甲冑群の公開調査を11月26日に開催した。</p> <p>記録保存による伝承支援として、黒川能のVHS映像やカセットテープ等音源のデジタル化(DVD化、CD化)、および囃子方の新規音源録音に取り組み、ディスクの活用方法として役者や学校関係への貸出体制を整備した。</p> <p>また、首都圏の大学能楽サークルの稽古合宿を誘致し、地元若手能役者との交流会等による交流事業も行っている。</p> <p>黒川能関連の祭事、イベントについては、黒川能保存会と連携し、ホームページやTwitter等のSNSを活用し情報発信している。</p>						
<p>4. 主な施策に関わる背景と課題</p>	<p>他の伝統芸能と同様に、黒川能も人口減少や少子高齢化、生活環境の変化や価値観の多様性による継承意識の希薄化等により、後継者の確保、育成が困難な状況となっている。</p> <p>また、黒川能独特の謡や舞等を習得するにはかなりの時間を要するが、勤務形態の変化等により十分な稽古時間を確保するのが難しくなっている。</p> <p>地域住民の交流の場、インフォメーション施設として平成15年に開館した王祇会館は、近年、団体ツアー客の減少や黒川能ファンの高齢化等により来館者が減少している。</p> <p>能楽ファンの掘り起こしやリピーターの確保が課題となっている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="304 1317 678 1585"> <p>H15.12 黒川地区年齢別人口</p> </div> <div data-bbox="687 1317 1061 1585"> <p>H26.3 黒川地区年齢別人口</p> </div> <div data-bbox="1070 1317 1444 1585"> <p>R4.3 黒川地区年齢別人口</p> </div> </div>						
<p>5. 今後の方向性 (R6～R10)</p>	<p>保存伝承研究会や交流事業については、事業内容やあり方について事業主体である黒川能保存会とも検討しつつ、継続していく。</p> <p>映像等ディスクを活用した保存伝承について、地元能役者の稽古や学校での学習のための貸し出しのほか、能楽に興味のある一般住民への貸し出しも検討し、推進していく。</p>						

総合計画基本計画 評価調書(主な施策)

担当部・庁舎・課室名	榎引庁舎 総企
------------	---------

<p>1. 基本計画での位置付け</p>	<table border="1"> <tr> <td>大項目</td> <td>7 地域の振興</td> </tr> <tr> <td>中項目</td> <td>(4) 榎引地域</td> </tr> <tr> <td>小項目</td> <td>イ 黒川能など貴重な歴史文化の継承と活用推進</td> </tr> </table>	大項目	7 地域の振興	中項目	(4) 榎引地域	小項目	イ 黒川能など貴重な歴史文化の継承と活用推進								
大項目	7 地域の振興														
中項目	(4) 榎引地域														
小項目	イ 黒川能など貴重な歴史文化の継承と活用推進														
<p>2. 主な施策</p>	<p>② 天狗舞獅子舞などの民族芸能の実態調査と課題の掘り起しなどを進め、民俗芸能の継承活動を支援します。</p>														
<p>3. これまでの取組内容</p>	<p>榎引芸術文化協会の会員となっている民俗芸能団体へ助成を行っている。 また、くしびき文化祭や榎引芸文協主催の「新春のつどい」等の催し物で披露していただき、発表の機会としている。 民俗芸能の保存伝承支援は、社会教育課が主体となって取り組んでおり、民俗芸能団体同士の情報交換、課題共有、発表の機会として「民俗芸能保存団体情報交換会」や「鶴岡市民俗芸能交流発表会」を開催している。</p>														
<p>4. 主な施策に関わる背景と課題</p>	<p>天狗舞獅子舞等は、地域に根差した伝統芸能であり、将来に渡り受け継がれるべき貴重な文化であるが、人口減少や少子高齢化、生活環境の変化や価値観の多様性による継承意識の希薄化等により、後継者の確保、育成が困難な状況となっている。 また、舞の衣装や諸道具は長年の使用により更新が必要となるが、高額であるため氏子の経済的負担にもなっている。</p> <p><b>榎引地域内の伝統芸能等継承団体名</b></p> <table border="1"> <tr> <td>公益財団法人黒川能保存会</td> <td>黒川能(上座、下座)</td> </tr> <tr> <td>河内神社伝統文化保存会(西荒屋天狗舞獅子舞)</td> <td>板井川河内神社天狗舞獅子舞保存会</td> </tr> <tr> <td>東荒屋伝統文化保存会(天狗舞獅子舞)</td> <td>下山添天狗舞獅子舞流鶴馬保存会</td> </tr> <tr> <td>八幡神社天狗舞獅子舞保存会(中田・常盤木)</td> <td>丸岡諏訪神社天狗舞獅子舞保存会</td> </tr> <tr> <td>上山添天狗舞獅子舞保存会</td> <td>上山添奴振り保存会</td> </tr> <tr> <td>松根天狗舞獅子舞保存会</td> <td>丸岡桐箱踊り等保存会</td> </tr> <tr> <td>鶴岡優良伝承保存会(御神子舞指導)</td> <td></td> </tr> </table> <p>※他にも羽黒町高寺の雷電神社に奉仕する馬渡の獅子舞、黒川の春日神社に奉仕する獅子舞がある。</p>	公益財団法人黒川能保存会	黒川能(上座、下座)	河内神社伝統文化保存会(西荒屋天狗舞獅子舞)	板井川河内神社天狗舞獅子舞保存会	東荒屋伝統文化保存会(天狗舞獅子舞)	下山添天狗舞獅子舞流鶴馬保存会	八幡神社天狗舞獅子舞保存会(中田・常盤木)	丸岡諏訪神社天狗舞獅子舞保存会	上山添天狗舞獅子舞保存会	上山添奴振り保存会	松根天狗舞獅子舞保存会	丸岡桐箱踊り等保存会	鶴岡優良伝承保存会(御神子舞指導)	
公益財団法人黒川能保存会	黒川能(上座、下座)														
河内神社伝統文化保存会(西荒屋天狗舞獅子舞)	板井川河内神社天狗舞獅子舞保存会														
東荒屋伝統文化保存会(天狗舞獅子舞)	下山添天狗舞獅子舞流鶴馬保存会														
八幡神社天狗舞獅子舞保存会(中田・常盤木)	丸岡諏訪神社天狗舞獅子舞保存会														
上山添天狗舞獅子舞保存会	上山添奴振り保存会														
松根天狗舞獅子舞保存会	丸岡桐箱踊り等保存会														
鶴岡優良伝承保存会(御神子舞指導)															
<p>5. 今後の方向性(R6~R10)</p>	<p>榎引地域としての支援を継続しつつ、社会教育課と連携しながら、実態把握や市全体の事業への参加等を推進していく。また、一般コミュニティ助成事業を活用した衣装・諸道具の整備や、継承活動に支援していく。</p>														



総合計画基本計画 評価調書(主な施策)

担当部・庁舎・課室名	櫛引庁舎 総企 産建
------------	------------

<p>1. 基本計画での位置付け</p>	<p>大項目 7 地域の振興</p> <p>中項目 (4) 櫛引地域</p> <p>小項目 イ 黒川能など貴重な歴史文化の継承と活用推進</p>																																																																																				
<p>2. 主な施策</p>	<p>③ 丸岡城跡史跡公園と黒川能の里王祇会館への集客や利用拡大を関係団体と一緒に進め、地域の歴史文化の理解促進と地域の活性化を図ります。</p>																																																																																				
<p>3. これまでの取組内容</p>	<p>丸岡城跡史跡公園は、平成 21 年度に史跡復元の面的整備を完了し、平成 28 年度に武家住宅旧日向家を復元整備しガイドンス施設として活用している。累計で年間 3,000 人を超える観光客(ツアー団体)が来訪したことから、令和 2 年度に大型バス 2 台、普通車 14 台が駐車可能となる駐車場を整備した(R3.5 月完成)。また、令和 3 年度に案内所内の資料展示スペースを拡充し、令和 4 年度には遠藤虚籟に関するパンフレット作成し、丙申堂や致道博物館に設置して誘客を図った。あわせて綴れ織りの製作体験イベントとシルクミライ館での資料展示を実施した。</p> <p>王祇会館は、年 4 回の定期展示や虫干し特別展示、黒川能を題材にした絵画展や絵本原画展等の特別展示を行っている。また、地域住民の交流の場にもなっており、各種会合や会議、地域団体や各種サークルの活動の場として定期的な施設利用もされている。</p> <p>さらに、インバウンドへの対応として、黒川能の仕舞体験や祭りでの行事食、郷土料理等についての紹介も行っている。</p> <p>令和 4 年度は、酒井家庄内入部 400 年記念事業と連携し、両施設でスタンプラリーの特別展示や甲冑等公開調査を開催している。(実施期間 10 月～11 月)</p> <p>また、ガイドンス整備事業(まちづくり未来事業)では、両施設にインバウンドに対応するため多言語(英訳)表記による観光パンフレット及び施設案内看板を制作した。</p>																																																																																				
<p>4. 主な施策に関する背景と課題</p>	<p>近年は、コロナ禍の影響もあり団体観光客は激減し、小グループや個人観光客が主になっており、新たなファンやリピーターを増やすためには、魅力ある展示や体験メニュー等の企画、HP・SNS 等を活用した情報発信の強化を推進する必要がある。また、ガイドの会の高齢化や担い手不足により観光案内に対応する会員の負担増加が懸念される。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="331 1326 853 1572"> <p>HPアクセス (丸岡城跡史跡公園)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>アクセス数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>41</td></tr> <tr><td>2</td><td>32</td></tr> <tr><td>3</td><td>38</td></tr> <tr><td>4</td><td>45</td></tr> <tr><td>5</td><td>55</td></tr> <tr><td>6</td><td>48</td></tr> <tr><td>7</td><td>42</td></tr> <tr><td>8</td><td>40</td></tr> <tr><td>9</td><td>45</td></tr> <tr><td>10</td><td>52</td></tr> <tr><td>11</td><td>48</td></tr> <tr><td>12</td><td>45</td></tr> <tr><td>年合計</td><td>500</td></tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="896 1326 1420 1572"> <p>HPアクセス (王祇会館)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>アクセス数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>25</td></tr> <tr><td>2</td><td>30</td></tr> <tr><td>3</td><td>35</td></tr> <tr><td>4</td><td>40</td></tr> <tr><td>5</td><td>45</td></tr> <tr><td>6</td><td>50</td></tr> <tr><td>7</td><td>45</td></tr> <tr><td>8</td><td>40</td></tr> <tr><td>9</td><td>35</td></tr> <tr><td>10</td><td>40</td></tr> <tr><td>11</td><td>45</td></tr> <tr><td>12</td><td>40</td></tr> <tr><td>年合計</td><td>500</td></tr> </tbody> </table> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="359 1579 885 1774"> <p>来館者数 (丸岡城跡史跡公園)</p> <p>[R4] ・ミュージアムスタンプラリー ・特別企画展示 (10月～)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>来館者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>10</td><td>3,411</td></tr> <tr><td>11</td><td>3,409</td></tr> <tr><td>12</td><td>3,285</td></tr> <tr><td>1</td><td>1,982</td></tr> <tr><td>2</td><td>1,608</td></tr> <tr><td>3</td><td>1,979</td></tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="917 1579 1444 1774"> <p>来館者数 (王祇会館)</p> <p>[R4] ・ミュージアムスタンプラリー ・特別企画展示 (10月～)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>来館者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>10</td><td>7,675</td></tr> <tr><td>11</td><td>7,497</td></tr> <tr><td>12</td><td>5,786</td></tr> <tr><td>1</td><td>967</td></tr> <tr><td>2</td><td>577</td></tr> <tr><td>3</td><td>1,198</td></tr> </tbody> </table> </div> </div>	月	アクセス数	1	41	2	32	3	38	4	45	5	55	6	48	7	42	8	40	9	45	10	52	11	48	12	45	年合計	500	月	アクセス数	1	25	2	30	3	35	4	40	5	45	6	50	7	45	8	40	9	35	10	40	11	45	12	40	年合計	500	月	来館者数	10	3,411	11	3,409	12	3,285	1	1,982	2	1,608	3	1,979	月	来館者数	10	7,675	11	7,497	12	5,786	1	967	2	577	3	1,198
月	アクセス数																																																																																				
1	41																																																																																				
2	32																																																																																				
3	38																																																																																				
4	45																																																																																				
5	55																																																																																				
6	48																																																																																				
7	42																																																																																				
8	40																																																																																				
9	45																																																																																				
10	52																																																																																				
11	48																																																																																				
12	45																																																																																				
年合計	500																																																																																				
月	アクセス数																																																																																				
1	25																																																																																				
2	30																																																																																				
3	35																																																																																				
4	40																																																																																				
5	45																																																																																				
6	50																																																																																				
7	45																																																																																				
8	40																																																																																				
9	35																																																																																				
10	40																																																																																				
11	45																																																																																				
12	40																																																																																				
年合計	500																																																																																				
月	来館者数																																																																																				
10	3,411																																																																																				
11	3,409																																																																																				
12	3,285																																																																																				
1	1,982																																																																																				
2	1,608																																																																																				
3	1,979																																																																																				
月	来館者数																																																																																				
10	7,675																																																																																				
11	7,497																																																																																				
12	5,786																																																																																				
1	967																																																																																				
2	577																																																																																				
3	1,198																																																																																				
<p>5. 今後の方向性 (R6~R10)</p>	<p>黒川能保存会や荘内加藤清正公忠廣公遺蹟顕彰会と協働し、これまでの文化財調査の結果や甲冑・出土品等を公開・展示することで、観光客だけでなく地元住民や小中学校に対して地域の文化的・歴史的価値に触れる機会を提供し理解を深める。</p> <p>また、酒井家庄内入部 400 年記念事業 NEXT100 等の各種事業と連携し、積極的な情報発信や魅力ある企画等を行い認知度向上と観光客等交流人口の拡大を図る。</p> <p>さらに、観光振興との連携を強化し、鶴岡南部エリア広域観光を構築することで、各施設が一体となって観光客の受け入れ環境整備(周辺整備)やデジタル化による課題解決を図る。</p>																																																																																				

総合計画基本計画 評価調書(主な施策)

担当部・庁舎・課室名

櫛引庁舎 総企

<p>1. 基本計画での位置付け</p>	<p>大項目 7 地域の振興</p> <p>中項目 (4) 櫛引地域</p> <p>小項目 ウ コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進</p>
<p>2. 主な施策</p>	<p>① 地域コミュニティ活性化推進のための集落支援体制の強化や櫛引生涯学習センターを拠点とした生涯学習の推進、また、ケーブルテレビを活用した情報発信と地域づくりの推進など、活力と持続性のあるコミュニティづくりを進めます。</p>
<p>3. これまでの取組内容</p>	<p>櫛引地域には広域コミュニティ組織がなく、平成27年度から2か年、検討してきたが当時は「直ちに設置する必要はなく検討を継続する」という一定の結論が出された。その後数年の間に、少子高齢化や若者の流出、定年延長等により、自治会役員の担い手不足、老人クラブ・婦人組織の弱体化など、潜在していた課題が顕在化しつつあり、また近年の自然災害の増加による広域自主防災組織の必要性等気運の高まりから、令和3年度より区長会において広域コミュニティ組織づくりの研究・検討を再開した。</p> <p>生涯学習については、平成30年度より旧櫛引公民館を櫛引生涯学習センターに名称変更し、住民組織の櫛引生涯学習振興会による指定管理を実施。趣味の講座やくしびき文化祭など従来の取組に加え、市民目線の講習や講座、市民参加の朗読劇の開催、仕掛人講座などにより生涯学習や人づくり活動が活発化されている。</p> <p>朝日・櫛引地域で放送している鶴岡市ケーブルテレビジョンについては、4K放送など高度化設備への更新を図りながら、引き続き地域に愛されるコミュニティ番組の放送、情報発信に努めている(市HPからリンクし一部番組が視聴可能)。なお、ケーブルテレビの光ファイバ網を活用し、市で運営しているインターネットサービスe-わネットは、当地域への光通信の民間参入が実現したため、櫛引地域については令和4年度当初で民間への移行が完了した。</p>
<p>4. 主な施策に関わる背景と課題</p>	<p>地域全体でも生産年齢以下の人口減少が著しく、地区によって深刻に大きな差が生じている高齢者人口は横ばいであるが、介護施設の増室等による影響も考えられる</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="336 1265 718 1568"> <p>H15.12 櫛引地域年齢別人口</p> </div> <div data-bbox="718 1265 1101 1568"> <p>H28.3 櫛引地域年齢別人口</p> </div> <div data-bbox="1101 1265 1497 1568"> <p>R4.3 櫛引地域年齢別人口</p> </div> </div>
<p>5. 今後の方向性 (R6~R10)</p>	<p>櫛引生涯学習センターは、耐震判断で強度不足が判明し、令和5年度に耐震補強と合わせて老朽化している屋根、外壁などの改修工事を実施し、安心な活動拠点を提供する。</p> <p>広域自主防災組織は令和4年度中の設立を、広域コミュニティ組織は後期計画期間の早い段階での設立を目指す。</p> <p>ケーブルテレビは、設備面で老朽化しているものが多くあるため年次的に更新し、コミュニティ番組の放送による地域の一体化醸成、市HPリンクによる情報発信を継続する。</p>

総合計画基本計画 評価調書(主な施策)

		担当部・庁舎・課室名																														
		榊引庁舎 総企 産建																														
1. 基本計画での位置付け	大項目	7 地域の振興																														
	中項目	(4) 榊引地域																														
	小項目	ウ コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進																														
2. 主な施策	② 将来の地域づくりのリーダーを育成する取組や鶴岡まちづくり塾によるイベントを支援し、協働のまちづくりと地域のにぎわい創出に取り組めます。																															
3. これまでの取組内容	<p>鶴岡まちづくり塾は、地域グループの設置がなくなり、現在は市全体で一本化となった。榊引グループから派生した「くしびきこしゃってプロジェクト」が主催する「こしゃってマルシェ」は、庄内地方のマルシェの草分け的な存在であり、今も継続開催されている。スタートアップ時は市で全面的に協力し、現在は側面からの支援を続けている。</p> <p>花いっぱい運動については、旧榊引町のS55年から続く住民参加型の美化運動で、管理の中心を担ってきた老人クラブの弱体化等による管理不足、参加地区の脱退、国道112号の連作障害など課題を抱えているが、状況に応じた植栽活動に取り組んでいる。</p> <p>くしびき若者未来創造事業については参加者がコロナ禍により減少したため、地域づくりに参画するきっかけづくりとして、気軽に参加できるワークショップ「かだりばくしびき」に形を変え、令和2年度から令和4年度まで合計7回開催した。</p> <p>地域おこし協力隊は、宝谷地区に、平成30年度に2名を配置したが諸事情により、1名が半年で退任、1名が2年で途中退任となった。その間の活動成果である、宝谷そば「でわ室」の商標登録、そばの加工品、キャンプ場の再整備などをフォローアップするため、地元住民が引き継いで活用を進めており、「宝谷地区集落ビジョン」の達成に向けた事業に対して支援を行った。</p>																															
4. 主な施策に関わる背景と課題	<p>【課題】活動に関わる住民(地区)やメンバーの減少(新規者の確保、代替わりが進まない)等</p> <p>【背景】・少子高齢化、担い手不足 生活様式、就業形態、余暇の過ごし方の多様化                  ・若者世代・子育て世代の流出、核家族化                  ・定年延長・農業の高齢化により60代～の地域活動参加が難しくなっている。</p> <p>【宝谷】新型コロナウイルス感染症の影響により、ふるさとむら宝谷(そば屋・宿泊・そば打ち体験)利用者が令和2年度以降減少しているが、反対にキャンプ場の利用者は増加している。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>そば屋来客数</td> <td>3,050人</td> <td>3,705人</td> <td>3,411人</td> <td>2,599人</td> <td>2,787人</td> </tr> <tr> <td>ふるさとむら宿泊数</td> <td>81人</td> <td>119人</td> <td>143人</td> <td>26人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>そば打ち体験者数</td> <td>207人</td> <td>287人</td> <td>306人</td> <td>6人</td> <td>46人</td> </tr> <tr> <td>キャンプ場利用者数</td> <td>39人</td> <td>20人</td> <td>65人</td> <td>64人</td> <td>182人</td> </tr> </tbody> </table>		項目	H29	H30	R1	R2	R3	そば屋来客数	3,050人	3,705人	3,411人	2,599人	2,787人	ふるさとむら宿泊数	81人	119人	143人	26人	3人	そば打ち体験者数	207人	287人	306人	6人	46人	キャンプ場利用者数	39人	20人	65人	64人	182人
項目	H29	H30	R1	R2	R3																											
そば屋来客数	3,050人	3,705人	3,411人	2,599人	2,787人																											
ふるさとむら宿泊数	81人	119人	143人	26人	3人																											
そば打ち体験者数	207人	287人	306人	6人	46人																											
キャンプ場利用者数	39人	20人	65人	64人	182人																											
5. 今後の方向性 (R6~R10)	引き続き、住民参加型、住民主導型の活動や、「宝谷地区集落ビジョン」の目標達成に向けた取組について、市の施策等を活用しながら支援していくとともに、情勢に応じ、連携・タイアップやリニューアル提案をしながら持続的な取組につなげる。																															

総合計画基本計画 評価調書(主な施策)

担当部・庁舎・課室名	櫛引庁舎 総企
------------	---------

<p>1. 基本計画での位置付け</p>	<table border="1"> <tr> <td>大項目</td> <td>7 地域の振興</td> </tr> <tr> <td>中項目</td> <td>(4) 櫛引地域</td> </tr> <tr> <td>小項目</td> <td>ウ コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進</td> </tr> </table>	大項目	7 地域の振興	中項目	(4) 櫛引地域	小項目	ウ コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進																											
大項目	7 地域の振興																																	
中項目	(4) 櫛引地域																																	
小項目	ウ コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進																																	
<p>2. 主な施策</p>	<p>③ 新たな地域公共交通の構築を図り、子どもや高齢者など交通弱者の生活支援を推進します。</p>																																	
<p>3. これまでの取組内容</p>	<p>令和元年度より櫛引地域の既存公共交通などを補完する新たな公共交通システム導入の検討にあたり、公益文科大学にデマンド交通導入調査を依頼し、その報告を基に制度の構築について、地域住民・関係団体と検討を進めてきた。</p> <p>令和3年度に3回の検討委員会を経て、地域主体の運営協議会を設立し、R3.11.18に会員制デマンドタクシーの実証実験運行を開始した。(R4.3月実績:会員数66名、月利用者数9名)</p> <p>市は、運営協議会に対して運営費助成を行うほか、事務局として事業運営を支援している。</p> <p>R4年度は、周知啓発、体験利用券の配布などの利用拡大策を実施し、12月末時点で会員登録者が81名、月利用者数も60~70名に増加している。</p> <p>また、運行内容についても5月に実施した利用者意向調査の分析を基に改善点の検討を進め、R4.10.1にリニューアル運行を行った。</p>																																	
<p>4. 主な施策に関わる背景と課題</p>	<p>・交通空白地帯が含まれる櫛引赤川右岸地域において、費用対効果が低下しているバス路線の減便、短縮が進むなか、交通弱者の生活支援のため、新たな地域公共交通手段の確保が課題となる。</p> <p>・デマンドタクシーの実証実験運行から本運行に向けて、更なる利用者の定着や増加、費用対効果の向上が課題となる。</p> <div data-bbox="343 1153 1476 1568"> <table border="1"> <caption>櫛引地域デマンドタクシー運行実績(R4.3~R4.12)</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>延べ利用者数</th> <th>一人当り運送費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3月</td> <td>9人</td> <td>28,189円</td> </tr> <tr> <td>4月</td> <td>16人</td> <td>15,398円</td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td>26人</td> <td>9,012円</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>64人</td> <td>4,050円</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>62人</td> <td>4,001円</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>47人</td> <td>5,300円</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>58人</td> <td>4,046円</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>64人</td> <td>3,906円</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>70人</td> <td>3,609円</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>64人</td> <td>3,785円</td> </tr> </tbody> </table> </div>	月	延べ利用者数	一人当り運送費	3月	9人	28,189円	4月	16人	15,398円	5月	26人	9,012円	6月	64人	4,050円	7月	62人	4,001円	8月	47人	5,300円	9月	58人	4,046円	10月	64人	3,906円	11月	70人	3,609円	12月	64人	3,785円
月	延べ利用者数	一人当り運送費																																
3月	9人	28,189円																																
4月	16人	15,398円																																
5月	26人	9,012円																																
6月	64人	4,050円																																
7月	62人	4,001円																																
8月	47人	5,300円																																
9月	58人	4,046円																																
10月	64人	3,906円																																
11月	70人	3,609円																																
12月	64人	3,785円																																
<p>5. 今後の方向性(R6~R10)</p>	<p>現行のデマンドタクシー実証実験運行(R3.11.18~R6.11.17)について、地域住民組織・関係団体と運行内容の検証による改善を重ね、R7年度に本運行として、新たな地域公共交通の構築が図られるよう利用拡大に努める。</p> <p>○目標設定</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>運行形態</th> <th>利用者数(1人当り経費)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R4年度【目標】</td> <td>実証実験運行</td> <td>527人(5,000円)</td> </tr> <tr> <td>R5年度【目標】</td> <td>実証実験運行</td> <td>793人(3,754円)</td> </tr> <tr> <td>R6年度【目標】</td> <td>実証実験運行</td> <td>925人(3,161円)</td> </tr> <tr> <td>R7年度【目標】</td> <td>本格運行</td> <td>1,054人(2,725円)</td> </tr> </tbody> </table> <p>地域振興課(交通輸送対策事業)へ移行。</p> <p>※実証実験運行(道路運送法21条 一般乗用旅客自動車運送事業免許可)          本格運行(道路運送法4条 一般乗合旅客自動車運送事業免許)</p>	年度	運行形態	利用者数(1人当り経費)	R4年度【目標】	実証実験運行	527人(5,000円)	R5年度【目標】	実証実験運行	793人(3,754円)	R6年度【目標】	実証実験運行	925人(3,161円)	R7年度【目標】	本格運行	1,054人(2,725円)																		
年度	運行形態	利用者数(1人当り経費)																																
R4年度【目標】	実証実験運行	527人(5,000円)																																
R5年度【目標】	実証実験運行	793人(3,754円)																																
R6年度【目標】	実証実験運行	925人(3,161円)																																
R7年度【目標】	本格運行	1,054人(2,725円)																																

【整理番号 No.660】

総合計画基本計画 評価調書(主な施策)

担当部・庁舎・課室名 櫛引庁舎 市福 総企

<p>1. 基本計画での位置付け</p>	<p>大項目 7 地域の振興 中項目 (4) 櫛引地域 小項目 ウ コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進</p>																																
<p>2. 主な施策</p>	<p>④ 住民同士の語らいや交流活動、創作(ものづくり)活動、文化活動、レクリエーション活動の取組を促す事業を実施することで、健康で生きがいのあるコミュニティづくりを推進します。</p>																																
<p>3. これまでの取組内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くしびき温泉ゆ〜Town でフレイル予防事業を実施し、高齢者の交流の場を創出して地域住民の健康増進に貢献している。</li> <li>・高齢者の健康維持、生きがいづくり、閉じこもり予防のために各地区が自主的に取り組む活動を支援するため各種講座等を企画の参考資料としてまとめたリストの作成・配布を実施している。</li> <li>・高齢者の安全・安心な暮らしを支えるため、「災害時要支援者支援計画の個別計画」の更新や「くしびき安心カード」の普及促進に区長、民生児童委員、健康福祉推進員及び櫛引福祉センターと連携し取組んでいる。</li> <li>・櫛引地域に根付いている、毎月1日の「交通安全(・防犯)の日」に各家庭での掲揚する啓発小旗を令和元年度に更新(未来事業)し、安全安心なまちづくりの意識付けに寄与している。また、先進である丸岡地区、東地区の青色パトロール隊については、他地区にも波及し広がりを見せている。</li> <li>・遊び場の整備については、一般コミュニティ助成事業を活用した地区広場への遊具設置を支援している。</li> </ul>																																
<p>4. 主な施策に関わる背景と課題</p>	<p>櫛引地域では、地域活動や老人クラブ活動に参加する人が減ってきており、健康維持や見守り等の様々な取り組みへの支援が必要となっている。</p> <div data-bbox="311 1115 1257 1579" data-label="Figure"> <table border="1"> <caption>老人クラブ加入率の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>老人クラブ会員数</th> <th>65歳以上人口(櫛引)</th> <th>老人クラブ加入率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>928</td> <td>2401</td> <td>39%</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>886</td> <td>2419</td> <td>37%</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>805</td> <td>2462</td> <td>33%</td> </tr> <tr> <td>H31</td> <td>739</td> <td>2523</td> <td>29%</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>643</td> <td>2547</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>643</td> <td>2573</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>612</td> <td>2591</td> <td>24%</td> </tr> </tbody> </table> </div>	年度	老人クラブ会員数	65歳以上人口(櫛引)	老人クラブ加入率	H28	928	2401	39%	H29	886	2419	37%	H30	805	2462	33%	H31	739	2523	29%	R2	643	2547	25%	R3	643	2573	25%	R4	612	2591	24%
年度	老人クラブ会員数	65歳以上人口(櫛引)	老人クラブ加入率																														
H28	928	2401	39%																														
H29	886	2419	37%																														
H30	805	2462	33%																														
H31	739	2523	29%																														
R2	643	2547	25%																														
R3	643	2573	25%																														
R4	612	2591	24%																														
<p>5. 今後の方向性 (R6~R10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もくしびき温泉ゆ〜Town でのフレイル予防事業を継続し、地域住民の健康増進に取り組んでいく。</li> <li>・「お役立ち講座リスト」は、内容の改訂を行いながら配布を継続する。</li> <li>・「災害時要支援者支援計画の個別計画」の更新や「くしびき安心カード」の普及促進についても取組を継続する。</li> <li>・引き続き、交通安全推進協議会櫛引支部、防犯協会櫛引支部の啓発活動や、青パト活動への支援(機材導入)を進める。</li> </ul>																																

【整理番号 No.661】

総合計画基本計画 評価調書(主な施策)

		担当部・庁舎・課室名	櫛引庁舎 産建 市福 (総企)
1. 基本計画での位置付け	大項目	7 地域の振興	
	中項目	(4) 櫛引地域	
	小項目	ウ コミュニティの活性化と安全安心な地域づくりの推進	
2. 主な施策	⑤ 赤川河畔エリア(櫛引総合運動公園、桜並木)、くしびき温泉ゆ〜Town、櫛引パーキングエリア地域拠点施設、生き生きべんとう村及び彫刻家富樫実氏の「空にかける階段」の作品群などの地域資源を効果的に活用し、魅力と賑わいある地域づくりを推進します。		
3. これまでの取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・王祇橋から馬渡桜つつみまでの間の両岸について「やすらぎの赤川河畔エリア」として住民憩いの場の拠点として整備するため、鶴岡市赤川かわまちづくり計画を策定、鶴岡市赤川かわまちづくり推進協議会を設置し、同エリアを計画の上流域エリアと位置づけ、整備内容の検討を行っている。</li> <li>・彫刻家富樫実氏の「空にかける階段」の作品などを櫛引生涯学習センターへ展示するとともに、氏の紹介動画をスマートフォンでも閲覧可能に編集、QR コードを付した紹介パネルを作成し氏を紹介する鶴岡市のホームページへのアクセスを容易にするなど、改めて氏の作品や功績を顕彰した。</li> <li>・生き生きべんとう村を会場に、地元の子供たちが森林と触れ合う体験教室を実施し森林の大切さや役割を感じてもらうことで地域への愛着心を醸成した。</li> <li>・横綱柏戸記念館の有効活用を検討するため、官民が連携し横綱柏戸記念館活性化推進委員会を立上げ、学童相撲大会などのイベントを企画した。</li> <li>・櫛引たらのきだ이스キー場の利用者拡大のため、民間企業が実施した「雪マジ 19・20(対象年齢リフト券無料)」に参加や、降雪状況に応じて営業期間の延長を行った。</li> <li>・櫛引パーキングエリア地域拠点施設の指定管理者から櫛引地域の特産品を販売等、櫛引地域のPRに努めていただいている。</li> <li>・R3年度に公社解散に伴い、「くしびき温泉ゆ〜Town 管理運営組合」が指定管理者として地域密着型の運営を行っている。これまでの観光振興施設からフレイル予防を中心とした市民の健康増進施設へ転換し、利用促進に取り組んでいる。</li> </ul>		
4. 主な施策に関わる背景と課題	<p>唯一無二の内外に誇ることができる人物や、作品、芸能、施設などの地域資源は多くあるが、記憶の風化や施設の老朽化、価値観の多様化などに加え、いまだ出口の見えないコロナ禍にあって、施設単体での取組は少しずつ成果が出ているが、近隣施設や業界、団体等と連携を図りながら集客や地域振興に結びつけていけるかが課題である。</p> <p>設置より年数の経った施設が多く修繕費等が高額であり、突発的故障など修理が追いつかない。</p>		
5. 今後の方向性 (R6~R10)	<p>今後も継続してそれぞれの施設の有効活用策などを官民連携体制で検討し、そして実行に移していくほか、それぞれの施設や近隣施設、業界、団体等と対話を進め、協力しあいながら集客や地域振興に結びつけていく。</p> <p>・赤川かわまちづくりの上流域整備はR6~を予定。</p>		